

平成 26 年度第 1 回三条市教育事務点検評価委員会会議録

- 1 開会宣言 平成 26 年 7 月 8 日（火） 午後 1 時 30 分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 2 階 201 会議室
- 3 出席者 雲尾委員長、村田委員、渡邊委員
- 4 説明のための出席者
長谷川教育長、池浦教育部長、笹川教育総務課長、久住子育て支援課長、樋山小中
一貫教育推進課長、前澤教育センター長、長谷川生涯学習課長、大谷教育総務課庶
務係長

5 傍聴人 1 人

6 会議次第

- (1) 開会
- (2) 開会あいさつ
- (3) 教育に関する事務の点検及び評価について

ア 実施方針

イ 点検・評価対象項目（平成 25 年度事後評価シートについて）

- (4) 次回教育事務点検評価委員会の日程について

- (5) 閉会

7 会議の経過及び結果

- (1) 開会

（池浦教育部長）

皆さんこんにちは。これから今年度第 1 回の教育事務点検評価委員会を開催させていただきたいと思っております。皆さん本当にお久しぶりでございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。全委員出席でございますので、会議の要件を満たしていることをまずご報告させていただきたいと思っております。

それでは、会議に先だちまして、長谷川教育長から御挨拶を申し上げます。

- (2) 開会あいさつ

（長谷川教育長）

それでは改めまして、ごめんください。本日は大変お忙しい中、三条市教育事務点検評価委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。この委員会は、御承知のとおりでございます。事務点検評価につきまして地方教育行政の組織及び運営に関する法律に定められているところでございますが、平成 20 年度から三条市では皆様方からお力添えをいた

だいて点検評価、いわゆる教育委員会の事務事業の点検評価をお願いをしてまいったところ
でございます。今般もまた大変お忙しい中、恐縮でありますけれども、雲尾委員長さんを始
め村田委員、そして渡邊委員、引き続いてまたいろいろと御指導いただきたいというふう
に考えてございます。

本日、お手元にお配りしてございます三条市の教育という冊子がございますが、この2ペ
ージに三条市の平成17年5月1日合併してからの教育基本方針が掲げさせていただいてご
ざいます。また、平成26年度でその期限が切れるということがございまして、今、新しい
教育基本方針の設定に向けて委員会等を開催しながら、これからつくり上げていくという段
階となっております。

そこで皆様方から今般、平成25年度の教育委員会の事務事業の点検評価を行っていただ
くわけでございますが、また新しい教育基本方針の参考にさせていただければ大変ありがた
いというふうに考えてございます。これから各担当の方でいろいろと御説明を申し上げます
が、またいろいろな角度から、そして、大所高所から御指導いただければ大変ありがたい
というふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

台風も近づいているようでもありますけれども、私ども、子どもたちの安全確保にあたり、
今、努力をしているところでございまして、そういった意味でもまたいろいろと御指導賜れ
ばというふうに思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日はありがとうございます。

(池浦教育部長)

それでは、ここからの進行は雲尾委員長からよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

(3) 教育に関する事務の点検及び評価について

ア 実施方針

笹川教育総務課長が説明

イ 点検・評価対象項目（平成25年度事後評価シートについて）

小中一貫教育推進課所管分について、前澤教育センター長及び樋山小中一貫教育推進課長
が説明

(雲尾委員長)

では、小中一貫教育推進課、教育センターの所管等でございます、1番の(1)～(6)、2
番の(4)、(5)につきまして質問等がありましたらお願ひしたいと思います。

まず1の(1)につきまして、1、2ページ。ここについてはいかがでございましょうか。

(村田委員)

第一指標のところ、目標値が大分下がっている理由を聞かせていただきたいんですけど。

(前澤教育センター長)

それでは補足させていただきます。昨年度までの、指標のとりためのアンケートというものが、そもそも小学校から中学校へ進学する際に不安を持っている子どもさんたちに対して、この取り組みでもって不安軽減がされましたかというふうな内容のアンケートでございました。この度は全市一斉でそういう切り分けなく、従いましてそもそも中学校進学へあまり不安を持ってない子どもたちに対して、この取り組みが有効であったかというふうに問うたがために、やっぱりその子たちにとっては、特にこの取り組みが有効であったかどうかの判断ができないというふうなことで、そういったことが影響したことから数字が下がったものというふうにも捉えております。そんなことで昨年度と少しアンケートの児童の対象が異なったということ、アンケートそのものが変わったということで御説明させていただきました。

(村田委員)

やっぱり見ると、数字に目がいって、すごく下がっているなど、この差をどういうふうに分析されているのかすごく気になります。そこの評価を見ますと「肯定的評価の割合が低い中学校区への支援が必要である」というのがありますので、肯定的評価の低い中学校区があるんだなど、すごくこの差があるんだというふうにまたすぐに頭がそっちの方に向かいます。今ほどおっしゃったようなことを文言に加味できたら、入れていただいた方がいいと思います。そうでないと、何かすごくアンバランスな感じがするというか、すごく評価しているところと、評価してないところがあるとか、中学校区ごとにすごく違うんだ、じゃあ、どういう支援をするんですかというふうなのを、また改善点のあたりに見たくになります。そこから辺の表現を、もう少しつけ加えていただければと思いました。

(雲尾委員長)

第一指標の「指標に対する評価」の部分が、最後の一文が「中学校区によって」が2つ重なっているのです、最初の「中学校区によって」は取っていただくにしても、その後の文章だけでは評価がわかりにくいということですね。そのところを明確にさせていただきたいということだと思います。

(前澤教育センター長)

わかりました。

(雲尾委員長)

そのほか、1、2ページでいかがでございましょうか。

(村田委員)

もう1ついいでしょうか。第二指標のところ、目に触れやすい内容に対しては非常に認知度が高いんだけど、内容的な面のそれどういうふうに協働してつくり上げたかっていうふうなところに行く、そういう面での評価が低いというふうなお話がありました。文言

にもそのようにありますが、全体としての認知度は高くなっているということは、この数字を見てわかります。それで、内面的な面が低いということは、そうであろうとも思いますが、去年あたりはどうだったのでしょうか。昨年度は完全実施じゃなかったと思いますが、保護者の評価はしていらしたわけですね。同じような傾向が、やっぱり出ていたのでしょうか。

(前澤教育センター長)

この傾向は、これまでアンケート等で数字をとらせていただいた中では同様の傾向が見て取れたかと思います。ただ、今年度使いました指標では、さらにそこを細かくは見取っていることから、目に触れやすいというか、記事になりやすいといったらいいんでしょうか、広報しやすいような分野についてはかなり高い、肯定的評価をいただいておりますが、その裏方になる部分についても、なかなか公表の仕方ですとか、広報等の仕方にやっぱり工夫改善が必要なのかなというふうな傾向がございました。

(雲尾委員長)

これは、第二指標は最初の指標説明の中に、アンケート項目のようにまるまる一文が入っていますけども、これは「交流活動」でかぎ括弧閉じて、「小中教職員の協働」にかぎ括弧をつけて、「小中のつながりのある授業」とかぎ括弧につけて、3つを聞いているってことでないですよね。3つを一文で聞いているわけじゃないですよね。

(前澤教育センター長)

そうです、それぞれで聞いておることです。

(雲尾委員長)

下の「指標に対する評価」では3つ分けて書いてあるので、だから、質問も分けてされているはずですので、上の説明のところを、これ誤解を招くと思いますので、3つをそれぞれかぎ括弧でくくってもらって、全体のかぎ括弧を外していただくのがいいかと思います。

(前澤教育センター長)

はい、わかりました。

(村田委員)

そうしたら、だからどうするのかというのが「今後の方針」で聞きたいところですよ。 「今後の方針」のところ「具体的な取り組みの実践を、教育委員会と各中学校区推進協議会とが連携して、確実に進める必要がある」というふうに、真ん中のあたりで書いてありますが、この表現はすごく具体性に欠けるというか、具体的などいうと、どの程度、具体的になるのかというようなことが問題になるかもしれませんが、もう少しこの具体性を持たせることができれば、こういうことに対してどうするのかというのをもう少し端的に表現できたらありがたいと思うんですけども。

(前澤教育センター長)

今年度入りましてこのことを踏まえた中で、各中学校区にお願いしていることは、今御指摘いただきましたように、いかに保護者、地域の方々にそれぞれの中学校区で取り組んでいることを見ていただくか、その場面を具体的に設定してくださいと、こういうふうにお願いしてございます。例えば乗り入れ事業をやっている、そのための合同研修会が開かれています。その部分も含めた広報ですとか、ちょうどその取り組みを行うためのその準備の部分、そういったものについてもきちっと保護者の方に伝えるような工夫をお願いしたいというふうなことで取り組みを進めてまいりたいと考えています。

(雲尾委員長)

書けるならばその2ページの改善方法の、1段落目の最後のところを、もう少し具体化してほしいということですね。

(前澤教育センター長)

はい、わかりました。

(雲尾委員長)

あと、「主な構成事務事業」のところ、3つあるんですけども。3つ目は、教育委員会が主語でそのまま読めるんですね。で、1つ目の「モデルカリキュラムの自校区化の推進」というのは、これは、主語は教育委員会ですか、学校ですか。

(前澤教育センター長)

各学校でございます。

(雲尾委員長)

そう読めるんですね。2番については、1行目の「中間発表会を開催し」までは教育委員会が主語で、そこから先は学校が主語になるんですかね。

(前澤教育センター長)

はい、御指摘のとおりです。

(雲尾委員長)

行政評価なので、教育委員会がやったことは何で、その成果は何かを問うのがまず第1点であると。学校のやったことの積み重ねも教育委員会の評価だという考え方もありますので、それはそれで構わないと思いますが、そこはきちんと弁別してもらって、教育委員会がやったことはこれである、学校がやったことはこれであるという形で書いていただかないと、主語が混じってしまいますと評価しにくくなります。そのところは分けて書いていただけるようお願いしたいと思います。

(前澤教育センター長)

はい、わかりました。

(雲尾委員長)

それからあと、表記で「総合評価」のところで、「平成 25 年度は」と始まって「昨年度」とあるわけですね。「昨年度」というのは、私たちは平成 26 年度の段階で、平成 25 年度の評価をしているので、「昨年度」というような表現が入ると、これは果たしていつのことやらというふうな悩みが出てくるんですね。ですので、平成 25 年度から見たならばその前年度というような表現になったりするでしょうし、そういったようなところで、そのところ、総合評価の 1 段落目の最後の「昨年 12 月末～本年 1 月において」というのも、これも平成 25 年の 12 月末から平成 26 年の 1 月ということかとは思うんですね。それでもって見ていくと、「今後の方針」の中の 3 行目の「昨年度の点検評価結果から」というのは、今年度の実施より昨年度ですから、平成 24 年度のことを指すんですかね。ここの「今後の推進方法」の中の「昨年度」というのは。

(前澤教育センター長)

はい、その部分は今年度でございます。

(雲尾委員長)

今後の推進方法の 1 行目の「今年度」というのは、これ、平成 25 年度ですよ。

(前澤教育センター長)

はい。

(雲尾委員長)

その「また、昨年度の点検表結果」の昨年度というものは、これは。

(前澤教育センター長)

平成 25 年度です。

(雲尾委員長)

平成 25 年度なんですか、これは。なるほど。そうすると「今年度の実施状況」と「昨年度の点検表結果」というのが、年度は同じものを指してしまっていることになるわけですよ。どうもその辺が全体的にほかのページでも見受けられるんですけども。年が、書いている人がいつの時点の意識で書いているかと、読んでいる私たちの時点がずれているので、そこを読み間違えないように書いていただきたいと思います。

(前澤教育センター長)

総合評価の部分の 1 行目の「昨年度」というのは、これは御指摘のように前年度のことになります。

(雲尾委員長)

わかりました。そのほか、1、2 ページいかがでございましょうか。よろしいですか。

次、3、4 ページですね。1 の(2)につきましては、いかがでございましょうか。

(村田委員)

3 ページの上段の内容のところ、 「公開授業研究に参加したりすることで」とありますが、参加するのは教員ですよ。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、そうです。

(村田委員)

前文と主語が違っているのではないかと思います。

(雲尾委員長)

「研修会を開催したり」は教育委員会がやることで、「研究（協議会）に参加したり」する人は教職員だということですね。

(村田委員)

だから、教育委員会がこの授業研究を、参加して実際やるのは教員でしょうけれども、教育委員会がそれを実施したりするわけですよ。そういう指導をしていくということを言いたいので、この「参加」を「実施」に変えたらいいかと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、主語を明示しながら、整理してまいりたいと思います。

(雲尾委員)

そのほか、いかがでございましょうか。

(村田委員)

4 ページの「総合評価」のところ、2 段目に「詳細にデータを分析すると、下がり幅は徐々に縮小しつつあり」とありますが、ここの内容を、もう 1 回お聞かせいただきたいんですけど。

(樋山小中一貫教育推進課長)

年によって上がったり、下がったりするのですが、全体的に、長期的に見ていくと下がり幅というか、マイナスの差の方がだんだん縮まりつつあるというような捉えをしているところでございます。

(雲尾委員長)

「下がり幅は徐々に縮小しつつあり」がよくわからないという。

(村田委員)

わかるような気がして、わからないような気がして。

(樋山小中一貫教育推進課長)

もう少しわかりやすい表記を検討させていただきます。

(雲尾委員長)

目標達成率で見ても、平成 25 年度は低くなっているし、数値も下がっているし、目標値

が上がっているから、実際値が下がってもいいのかと思うけれども、目標達成率でも下がっているの、そこをどう見るかということがこの表現だけではわからないということですよ。要検討していただくということで。

(村田委員)

同じところに「今後の取り組みにより、やがて向上に転じ」と書いてあるんですけど、その取り組みのことが、「今後の方針」のところでも述べられているわけですよ。それはどこのことですか。「異校種教員から学ぶ」とか、そういうところでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

その部分でございます。その2行です。「また、乗り入れ授業を一層充実させる」。

(雲尾委員長)

小学校団体はいいけれども、中学校団体がということで、「中学校教員が」というふうに書かれていると思うんですけど、そうすると小学校ではしないのかなという気もするんですけどもね。それはまた来年度のことになるかと思いますが。

そのほか、よろしいでしょうか。

それでは5、6ページ、1の(3)につきましてお願いいたします。いかがでございましょうか。

(村田委員)

表現の問題で何ですけど、「主な構成事務事業」の1のところ、「三条のよさについて学ばせる機会を提供していく」とありますけれど、「学ばせる」なんかいわなくても「学ぶ機会を」と表現してもいいと思います。ほかの書きようも、そういうふうになっていると思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

御指摘ありがとうございます。

(雲尾委員)

「させる」を使わなくてもいいところは使わないでというお話でございます。

そのほか、いかがでございましょうか。

成果指標の第一指標で、子どもたちの参加者数の前年度比を挙げているわけですよ。それでもって総合評価の中では「児童生徒数の減少が影響し」と言っているわけで、だから、児童生徒数が減少するのは明らかに、もうこれは統計数上はつきりしているわけなので、第二指標の自由参加の方はさておき、第一指標の方の各学校かける何回とかいうものについてはその前年度比が指標になるのではなくって、そのかける何回でしたときの数に対して何%かということの方が指標なんじゃないですかね。数字の表し方としてはいかがでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

私の解釈が間違っているかもしれませんが、レポートをする人間の数もここに含まれているのかもしれないと思ったところでございます。ですが中学校は、例えば2年生のときにこれをして、1年生のときに木工関係、2年生になったら必ず包丁研ぎというふうにして、もうカリキュラムが決まっておりますので、いくら評判が良くてもレポートするっていうことは今ちょっと難しくなっていると、そのように考えていたところです。

(雲尾委員)

指標説明の中で小学校1校1回、中学校1校2回と書いてあるわけですので、それで設定数に対して、そのかけるの人数に対して何%ぐらい参加してもらって設定しているのかということですね。その充足率がここは数字としては変わるべきだろうと。そうしないと、子どもの数が減っていったら、必ず前年度比で減っていってしまいますので、常にマイナスになってしまうということになります。そこのところを計算していただくのが必要かと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、わかりました。

(渡邊委員)

小学校の小刀学習がありますが、30学級というふうに書いてあるんですけども、1つの学校、1学年1クラスしかない学校はその学年ごと、学年ごとというか、その学年がやったんだと思うんですけども、いくつも学級数がある学校がありますよね。それはもうその学年全部が共通して、1度にではないにしても実施しているような形なんですかね。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、そのような理解をしているところでございます。資料を持ってこなかったものから、詳細な説明はできません、すみません。

(雲尾委員長)

そのほかいかがでしょうか。

「今後の方針」のところの3行目のところに「年度当初に学校行事等の調整ができるように、各種資料の送付を早期に行い」といった場合、年度当初ではもう計画立てて遅いのではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

確かに4月ではもう遅過ぎると思います。1月、2月という学校行事等の計画を立てる段階で、日程等をお知らせするべきだと、そのように考えています。

(雲尾委員長)

それでは、ここの「年度当初」というところはまた変えていただくということで。

(樋山小中一貫教育推進課長)

少し表現が変わると思います。

(雲尾委員長)

はい、わかりました。

(村田委員)

「総合評価」のところで、2行目のところに「楽しかった」の子どもの評価が前年度より0.2%減少し、94.8%であったとあるんで、減少したんだなというふうに思うんですけども、でも、依然として94.8%と非常に高い評価を出しているというか、もう少しこの高いということを行った方がいいんじゃないでしょうか。依然としてだけじゃ、「減少し」なんかいうとすごく低いのかっていうふうに思いますので。

(渡邊委員)

第二指標の中のわくわく科学フェスティバルだけ前年度比72.1%、これは何か理由があったんですか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

参加数が減った原因についてですか。

(渡邊委員)

そうですね。みんな109、109できていて、ここだけ前年度比ですよ、去年の参加者に比べて72.1というのはここだけ何でがくんと参加者が減ったのかなと。

(樋山小中一貫教育推進課長)

日程がうまくいかなかったんじゃないかと思います。

(雲尾委員長)

「総合評価」の中には「猛暑で参加者数が減少した」とありますが、どうなんですかね。猛暑だとみんな涼しいところへ、こういう公共施設へ行くという発想ではないんですか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

いや、会場自体が、ここにも書かせてもらいましたが。

(雲尾委員長)

会場が暑いんですか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

会場が、残念ながら暑かったというのは聞いています。

(雲尾委員長)

でも、参加者は会場に行かないと暑いかどうかってわからないですよ。行って見て、暑くて帰ったというわけでは。

(樋山小中一貫教育推進課長)

そうですね。ちょっと日程の方が、問題があったのかもしれませんが。

(池浦教育部長)

何かほかの行事と重なっていたのでは。

(樋山小中一貫教育推進課長)

わかりません。調べてみます。

(渡邊委員)

行った時点で帰った人は参加者の中に入っているわけでもんね。

(樋山小中一貫教育推進課長)

そうですね。栄体育館の2階は全部クーラーがついてすごく涼しかったんですが、1階のブースはすごく暑くて大変だったという反省がありましたので、改善点等にもまたいろいろ検討してまいりたいと書かせてもらったところです。

(雲尾委員長)

最近、その節電ブームが収まってきて、皆さん普通に使われるようになってきたので、あまり公共施設のクーラーで人を呼べなくなっていることはありますけど。その辺は、少し確認していただいて、この理由のところも御検討いただくということでお願いいたします。

ほかに5、6ページ、よろしいでしょうか。

では7、8ページ、食育・体力づくりにつきまして、いかがでございましょうか。

(村田委員)

7ページの、上段の内容の最後の行、そしてその上の行で、「を行い、各学校で計画的に行うことで体力の向上を図る」というのがありますが、表現の問題ですけど、「行い」と「各学校で」というのを削った方がすっきりすると思います。

(雲尾委員長)

最初の「行い」を取るってということですか。

(村田委員)

「()を計画的に行うことで体力の向上を図る」としても。

(雲尾委員長)

「1学校1取組を計画的に行うことで」ですか。

(村田委員)

はい。「体力の向上を図る」でもいいんじゃないかと。

(雲尾委員長)

「行い、各学校で」を取ると見やすいということですか。

(村田委員)

はい。

(樋山小中一貫教育推進課長)

わかりました。

(雲尾委員長)

そのほか、いかがでございましょうか。

(村田委員)

8ページの第一指標のところの「指標に対する評価」ですけれども、ここに子どもたちの意識がどんなふうに変まっているのかとか、子どもたちの生活習慣がどんなふうに変更されてきたのかというふうな姿があると思うんですけれども、そういうものを少し記入していただきたいと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

子どもたちの感想がたくさん寄せられているところがございますので、それを参考に、今の御指摘どおり文章をつくっていきたいと思います。

(雲尾委員長)

第一指標は、要するにインプットでどれだけやったかだけで、その結果としてのアウトプットは総合評価の中に少し書かれているけれども、そこをもう少し提示していただきたいということですね。

(村田委員)

はい。去年、渡邊委員さんが、家庭での子どもたちの変化ということをおっしゃったこともすごく印象的だったんですね。そういう、やっぱり中身の文言をちょっと入れてほしいなと思いました。

(雲尾委員)

ということで、そこをもう少し書いていただくということで。

それから、第二指標の方ですと具体的には「総合評価」の中で3つの、小5男子の長座前屈と、小5女子反復といったもの、4つが書いてありますが、全部で近い項目が6項目あったというときに、近いというのは人が、あるいはあと一歩とかいうのはちょっと恣意的ですので、県平均との差が何%以内とか、そういったような形で表現していただくことはできませんでしょうか。ご検討いただきたいと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、かしこまりました。

(雲尾委員)

7、8ページ、そのほかいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

(村田委員)

その6項目のことですけど、もうちょっとというのが6項目あったというふうなのが「今後の推進方法」のところにも、体力づくりのところにも、最初の一文がそうなんですよね。これ、すごく何回も出てきて気持ちはわかるんですけれども、これはここに書かなくてもいい

と思います。

(雲尾委員長)

「今後の推進方法」では言わないということですかね。

(村田委員)

はい。いらないと思います。

(雲尾委員長)

確かに、よく読むと、課題とあるのは柔軟性と持久力ですから。この中でいうと柔軟性は、小5男子長座前屈は柔軟性ですかね。持久力は反復横跳びもあえて言えば持久力かな。微妙だ。ですから、後の文章、「課題である柔軟性と持久力」という文章からいうと少しずれがあるということもありますので、そこはこの一文ぐらい削っていただくということをお願いしたいと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

承りました。

(雲尾委員長)

では、7、8ページはこれで終了いたしまして、では、8、9、10ページ、1の(5)でございます。これについてはいかがでしょうか。

(村田委員)

9ページの上段の「内容」のところに「適応指導教室ふれあいルーム」と続けて書いてある文言がありますよね。そしてかぎ括弧であるわけですが、ふれあいルームっていうの、下のほうに括弧づけもあったような気がして。

(雲尾委員長)

「構成事務事業」では、「適応指導教室(ふれあいルーム)」となっているということですね。

(村田委員)

なっていますね。そして、鍵をつけ、これは適応指導教室を特別言いたいわけですので、全部その鍵をつけたらいいと思います。かっこをつけることと、かぎをつけることを。

(雲尾委員長)

今、「内容」の方をおっしゃっていますか。それとも「構成事務事業」ですか。

(村田委員)

「内容」の「ふれあいルーム」にまず括弧がいるのではないかと。

(雲尾委員長)

「ふれあいルーム」に、下と同じように丸括弧をつけるということですね。

(村田委員)

はい。そして、「深めよう絆スクール集会」これも。「内容」の下から2行目にありますよね。これもかぎ括弧をつけた方がいいと思います。

(雲尾委員長)

「深めよう絆スクール集会」という一語であるということですね。

(村田委員)

はい。そういう集会の名前だと思うんですけど。下の方はそうなっていますよね。「構成事務事業」の中では。

(雲尾委員長)

「構成事務事業」の中では、「深めよう絆スクール」は、内容には書いてあるけど、名称にはかぎ括弧ついてないですね。

(村田委員)

そうですね。名称もつけた方がいいと思います。

(雲尾委員長)

いかがでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

御指摘のとおり全て統一してまいりたいと思っています。固有名詞に近いものについては「」、そして仮称という形で()にして、「」と、全てのところを統一してまいりたいと思います。

(村田委員)

平成25年度はすごく予算が増えているわけですが、これはどこに一番増えたのか、どこにもそんなことは書くとこはなくて、それはいいんですけど、聞かせていただきたいと思いましたので。

(雲尾委員長)

まあ、倍増ですかね。

(樋山小中一貫教育推進課長)

詳しい予算書を持ってないんでわからないんですけども、HYPER-QUが全市導入されたのが平成25年度だと理解しています。

(雲尾委員長)

HYPER-QUのこと書いてありますね。それで事業名称は「いじめ・不登校対策の充実」であって、この内容の順番も、いじめ、HYPER-QU、絆スクールが先に来て、適応指導事業が後ではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

全体の書きぶりとして、不登校対策をして、いじめ問題にしているわけですが、いじめに端を発して不登校になっている子もいることを考えると、やっぱり先にいじめ対策が

ないと、不登校対策だけしても、学校に行かせてもまたいじめが来るのでは困る話で。いじめが先で、不登校が後、題名通りに書かれた方が全体的には良いかと思いますが。

(樋山小中一貫教育推進課長)

1 番のふれあいルームの方、1 番、2 番を 2、3 と下げて、1 番目の絆スクール集会を上げます。

(雲尾委員長)

あと、実施計画の内容ですとか、総合評価推進効果の中でも、各場合においても順番を入れかえていただいた方が筋は通るのではないかと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、わかりました。

(村田委員)

10 ページの方の「総合評価」のところの下からの 3 行ですけども、このことからっていうのがありますよね。これは、今後の推進方法のことを言っていると思いますので、下段の方に移したほうが良いと思います。

(雲尾委員長)

今後の対策なので、平成 25 年の評価ではなくて「今後の方針」に移すということですね。

(樋山小中一貫教育推進課長)

御指摘のとおりだと思いますので、移動させたいと思います。

(雲尾委員長)

それから、今後の方針で、不登校対策についてのところで県の方から、「70%が小学校のどこかの学年で 10 日以上欠席がある」とのデータが示されたというとなんですけども、これは三条も同じであるという認識なんですかね。県平均がこうだということですね、この数字は三条市の子どももそうなのでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

それはまだ、調べてはございません。

(雲尾委員長)

三条市があげた調査を県が分析しているわけですから、まとめて。三条市も同じような分析ができるわけですよ。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい、できると思います。

(雲尾委員長)

ですからそれが、あくまで全県平均なので、三条市も果たしてそうなのかどうかということとは検討していただいた方が良いと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

ありがとうございます。

(雲尾委員長)

「主な構成事務事業」のスクーリング・サポート・ネットワークのところ、()のつく位置が「年々深刻する困難ないじめ・不登校問題」のところで、「外部機関にどこにも繋がらない引きこもり状態」が「不登校」についているんですよね。これだと不登校というのはそういうことだというふうに読めてしまうんですよね。「年々深刻化する困難ないじめ・不登校問題」の中でも、特に外部機関とどこにも繋がらない引きこもり状態」というのが、学校と家庭だけでは解決できない状況だということですよ。だからこの辺、一般名詞というか、不登校という言葉にそれが全部かかっているんで、非常に読んでいて、普通の不登校と言ったらなんですけども、そういう不登校の子もこういう状況に置かれているような表現になってしまっているんで、そのところを、非常に困難な状況についてのことだということが、もっと普通の不登校の表現をわけていただいて。

(樋山小中一貫教育推進課長)

わかりました。

(雲尾委員長)

そのほか、9、10ページいかがでしょうか。

それでは11、12ページ1の(6)、特別支援教育についていかがでございましょうか。

(村田委員)

第一指標のところの指標の説明で、末尾が「業務に対応するだけの配置が必要である」となっていますが、「業務に対応するだけの配置をする」ではないのでしょうか。必要であるのはいつも必要で。

(雲尾委員長)

指標説明としては「配置する」であるということですね。

(村田委員)

「する」でいいと思いますが。

(樋山小中一貫教育推進課長)

前の項目というか、前ページも全て「する」というふうな形になっていますので、ここもそのように変えさせていただきます。

(雲尾委員長)

その前の表現が、「通常学級への学習支援を中心とした業務に対応するだけの配置する」、だと、配置するだけなのはいいんですけども、その前の文章が「中心として」がまずいらなんですよね。「通常学級在席時への学習支援業務に対応できるよう配置する」ですかね。そ

うしないと文章としてはおかしいですね。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

「指標に対する評価」のところでも、「通常学級に在席し」が最初にあるのではなくて、「個別な教育的ニーズに応じた支援が必要な児童生徒が、通常学級に増加している状況がある」というふうに、「通常学級」の後に下げた方がわかりやすいと思います。ということで第一指標のところでございますが。

(村田委員)

「今後の推進方法」のところ「月ヶ岡特別支援学校との連携を強化し、同校のセンター的機能を生かし」というのは、昨年度も同様のことが言われていたと思うんですね。その例がどういうふうなものがあったのか、第二指標と関係があると思いますので、そここのとこに少し入れられないかと思うんですけれども。

(樋山小中一貫教育推進課長)

研修会の際の講師を依頼したり、またはケース会議のときに出席をして指導をいただいたりというようなことをしていると思いますので、そういったことを入れたいと思います。

(雲尾委員長)

毎年ここが同じ表現なので、毎年進んでないのかというふうに読み取れるんですね。村田委員がおっしゃったように、月ヶ岡特別支援が入っているということを書いていただきたいということですね。そういう意味で、その第二指標の指標説明のところももう少し書き変えていただいた方が良いかと。指標説明と評価と合わせて入れていただいて、書いていただくということをお願いしたいと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうすると次に飛びまして2の(4)ですので、19、20ページでございます。19ページ、20ページ、いかがでしょうか。スクールアシスタント制度の充実でございます。

(村田委員)

今ほどの特別支援の教育指導員のところでは、特別支援のそういう指導員の配置がどうであったかということをお出ししておられますけど、このスクールアシスタントのところでは「内容」のところでも「適正な人員を配置」ということと「資質向上を図るための研修の充実に努める」という2つのことが言われていると思うんですね。それで「主な

構成事務事業」は研修のことだけしか書いてないわけで、どういう配置をしたか、その前にもあってもう頭打ちなんだかもしれませんが、そこら辺いらないんでしょうか。「適正な人員を配置し」と書いてあるならば、どういう配置をしたのかということが必要だと思います。

(雲尾委員長)

「総合評価」のそこには、「スクールアシスタントは希望通り配置できた」とあるわけなんですけど、これだけなので。果たしてどう、何名配置であるのかとか、それが「内容」のところでも「適正な人員」とあるんですよ。適正というのは誰がどう考えて適正かといったところがわからないですね。行政的の、財政的に適正だとは思うんですけども。学校に本当に希望を聞いたらもっとたくさん欲しいっていくらでも出てくるはずなんです。ですから、まず大事なことでは「教職員の多忙化解消のための人員を配置し」だけで、「適正な」という表現はいらんと思います。「ための人員を配置し」と。果たしてその人員は何名だったのかというのがわからないということです。いかがでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

そういった文言を入れさせていただこうと思います。

(雲尾委員長)

「総合評価」では「内容について検討する必要がある」と書いてありますが、毎年同じ人がやっているとしたら、毎回同じ研修やっても来ないだろうと思います。その辺の説明が何もないのでどうなっているんでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

毎年特別支援教育に携わるというか、お手伝いをいただく割合は増えていると聞いています。約6割以上は交流学級等で勉強の補助をやっていると聞いておりますので、そのような研修のニーズが多いのではないかと考えているわけですが。今言ったとおり毎回同じ方から同じような講義を受けると、きっとそれほど指標の数値は上がらないとは思っていますので、検討してまいりたいと思っています。

また、学校にとっては力になるっていうところも考えながら、検討していきたいと思っています。

(雲尾委員長)

スクールアシスタント本人が入れ変わってなければ、同じ内容なら絶対来ないわけですね。内容を変えていったとしても、例えば研修会に参加するために私費であるのかとか、そういったようなこと、どういう、参加費用の補助も出ているんですか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

お願いしているところでございます。

(雲尾委員長)

わかりました。

(渡邊委員)

「総合評価」のところなんです、3行目、「第1回目に比較して2回目の参加率が15.8%に落ち込んでいる」と書いてありますが、2回目の参加率が15.8%なわけではないですね。この1回目の69.7から2回目が53.9に落ち込んだということで、15.8%に落ちたというわけではないですね。

(雲尾委員長)

「に」が余分ですかね。「参加率が15.8%」。ひらがなの「に」を取ってしまうといいですね。

(村田委員)

2回やるのが負担ならば、もう1回しかないわけですね。何がネックで本当に2回目が落ち込んだのか。同じような研修会をやられているからなのか、学校行事とか負担にならないような回数とかいろいろ書いておられますけども、そうじゃないような原因もあるのかもしれない。研修が必要ないという人はいないと思いますけど、あんまり必要とされていないようなことも、もしかすると裏にあるのかもしれないと思ったりして。もう少し、この背景を掘ってみたいと思います。

(樋山小中一貫教育推進課長)

理由に、2回とも同一講師によるというようなところで興味がなくなったのかなというような読み取りなんでございますけれども、今御指摘のとおり、もしかするとニーズがなかったのかもしれない。必要感にかられる研修を設定できなかったかもしれない。アシスタントさんたちに御意見を承りながら、考えてまいりたいと思います。

(雲尾委員長)

「今後の方針」にも時期などが書いてありますので、そういったようなことを見ていただくということで。例えば、年度単位で更新してあるアシスタント制度ならば、翌年度がどうなるかわからない状況で研修を受けろと言われても、今忙しいからとは思ってしまうでしょうし。来年もやってもらいますのでぜひお願いしますと言えば参加意欲も高まるでしょうし。その辺の時期的な、任用との関係もあると思いますので。そういったようなことも総合的には判断いただくということかと思えます。

(渡邊委員)

アシスタントのきっと仕事の内容、その学校だったり、その学校の中でもまた複数人いる学校だったら、またその方によってやることも違うと思うんですね。どういうふうにそのアシスタントが使われているかというのは、またまちまちだと思うんですが、きっと特別支援

の研修を一生懸命しても、実際、図書館専門のアシスタントさんもいるという話なので、そうなったときに聞いておいて損はないかもしれないけども、実際自分が今学校でやっていることには直接かわらない、そうなったら、そこまでして時間を使ってまで研修行く必要もないよなっていうのもやっぱり出てきますよね。1回目のときは年度初めだからとりあえず行ってみよう、でも2回目は同じ内容だったら、私、図書館専門でやっているのに特別支援のこの勉強、そこまで時間割いてまで行けないわってことになれば2回目は遠慮しておこうかっていうことにもつながってくるだろうし。

あと、ちょっと耳にしたのが、学校から案内がない方もいらっしやったらしいんですね、実際のところ。私、その研修あるって聞いてないから申し込みもしてなかったという方もいられた、そういう話を聞いたことがあるので、そこら辺、学校の先生忙しいかと思うんですが、周知の方をしていただければと。

それと、先ほどの中にもありますけど、内容ですよ。特別支援メインでやって、果たして本当にその関係ない方も出て、本当は関係ないって言うてはいけないのかもしれないんですけども、ちょっと特別支援から離れたところの何か研修とか、そういういろんなことを、事務の勉強をしてもしょうがないんですが、それだけじゃない、特別支援だけじゃない、何かいろんな内容についての講演だったり、研修だったりというのがあるとまた違うのかなと。
(樋山小中一貫教育推進課長)

承りました。

(雲尾委員長)

では、2の(4)はよろしいでしょうか。

では、2の(5)でございます。21、22ページをお開きください。ここについていかがでございますでしょうか。

(村田委員)

21ページの上段の「目的」のところなんですけど、「どうなることを目指す」の中で、会議の開催数が増えることを目指している。これは目指すことなのかなと思って。私は特色ある学校づくりを目指すとか、地域に開かれた学校を目指すとか。会議の開催数ではないように思うんですけども、どうですか。

(雲尾委員長)

評価指標がそうなっているわけですが、いかがでしょうか。

(樋山小中一貫教育推進課長)

すぐ指標にしやすいものがここに上がってきたのかなと。でもおっしゃられるとおり、会議はいくら増やしても学校が活性化できないのでは意味がないですし、目的自体はやはり地域と保護者の人たちが学校を支援する仕組みづくりというところで、またご意見をいただき

ながら考えてまいりたいと思います。

(雲尾委員長)

ということで、それは指標にしているの、目的のところこそ書かれてしまっているということで。新たな指標をつくるのか、このままとりあえず最終周期まではいくのかということでございます。

(村田委員)

指標にそういう回数、回数というの、やはり、そういうために必要なものだと思うので、指標にそういうのが上がっているのはいいと思うんですけども、学校が目指す姿というのは、目的というのは回数じゃないだろうなというふうに思います。

(雲尾委員長)

目的を別の検討として、学校、地域を、題名のとおりですね、地域、保護者が学校運営に参画する、参画するとまで言いますと学校内協議会になってしまいますけども、そういったような形で意見が繁栄されるとか、そういったようなことが書けないかということですね。

会議の開催数で言いますと、「総合評価」のここでは「平成 25 年度は、回数としては目標値に達することはできなかった」とありますけども、それが「今後の方針」の中では、それについては言及がないんですね。要するに、22 ページの下の 2 つの枠でいうと、下から 2 つ目の枠の中には「回数としては目標値に達することはできなかった」と書いてある。しかし、それに対して「今後の方針」はどうするかは書いてないわけですね。今後も 140 回こなしていくということなわけですけども、学校の数が減った中で増やせるのかという心配もあります。どうでしょう。今後としては。

(樋山小中一貫教育推進課長)

そうですね。今の御指摘も含めながら「総合評価」と「今後の推進方法」について、少し考えていきたいと思います。

それで、目標値が平成 23 年度から 5 回ずつ増やすということで、平成 26 年度 140 回となってしまうところもございますので。学校が少なくなっているところも踏まえながら、検討させていただきたいと思います。

(村田委員)

「今後の推進方法」のその文章ですけども、すごくわかりにくいと思うんですね。例えばその上から 3 行目の「学校運営が随所に行われているかなどの視点を参考意見として」とありますけど、「随所に」なんかいらんんじゃないかと思えます。主語は教育委員会ですね、教育委員会は「受け止めるように働きかけていく」わけであり、すごく難しい文章だなと思えますので、整理していただきたいと思えます。

(雲尾委員長)

そういうことでございます。2の(5)につきましてはよろしいでしょうか。

子育て支援課所管分について、久住子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

では、ただ今の2の(1)、2の(2)の項目につきましてお伺いたします。

まず2の(1)ですね。放課後子ども教室について、いかがでございましょうか。

(村田委員)

放課後子ども教室をどこで何回やったとか、何か所でやっているのかというのはわかるんですけども、子どもたちの様子が見えないので、総合評価のあたりに子どもの様子等の表現がほしいと思いますし、参加の子どもたちの数の推移とかいうのも押さえていただけるんだったらそういうこともちょっと入れていただけたらいいと思います。

(雲尾委員長)

参加者数とか、子どもの感想とか、そういったようなものはございますか。

(久住子育て支援課長)

はい。数値的には毎年各学校の方でっております。

(雲尾委員長)

そういったようなものを総合評価等の中に反映することは可能ですか。

(久住子育て支援課長)

はい。

(雲尾委員長)

では、お願いいたします。スタッフ等にもとっているんですかね、参加スタッフ等のご意見など。

(久住子育て支援課長)

その数もございます。またどういう事業をやったとか、どういうイベントを行ったとか、その時のまた感想等々、そういうものもとっております。

それでは、この事業の内容を少しここに記載し、継続事業の内容も記載させていただくということでよろしいでしょうか。

(雲尾委員長)

指標としては開催個所と開催回数だけですので、「総合評価」としてはそのほかにもそういったような子どもの数の推移だとか、子どもたちの意見とか、スタッフのことについても同様に盛りこんでいただいて、そこから「今後の推進方法」としては、数を増やすというだけではなくて、質的な部分も上げていくようなことを書いていただきたいということですね。

(久住子育て支援課長)

はい。

(雲尾委員長)

2の(1)についてはよろしいでしょうか。

では2の(2)、家庭教育講座についていかがでしょうか。

(雲尾委員長)

これはNPOかどこかに委託して、全部、就学健診か何かのときに始めたものが、これに入っているのではなかね。

(久住子育て支援課長)

はい、そうです。小学校の就学健診時と、中学校の入学説明会ということで、全小学校、全中学校に委託をしてやっている事業です。

(雲尾委員長)

それが「子どもの成長に合わせて講座内容の方向性を統一させて」とありますが、非常に抽象的でわからないんですよ。県の家庭教育推進協議会の方で話も出て、聞いていたので、私はわかるんですけども。それが知らない人はこれは何を指しているのかが多分さっぱりわからない文章だと思うんですよ。そういうふうを書けば、そういう意味はわかると思うんですけど、もう少し具体的に書いていただいても良いのではないかと思います。

(久住子育て支援課長)

「今後の推進方法」というところをもう少し具体的に書きます。

(雲尾委員長)

そうですね。今「指標に対する評価」も、「総合評価」も、全部そういった書きぶりになっていますので、そこがわかるように書いていただければいいかと。今、口答でご説明いただいたような形でお書きいただければと思います。

そのほか、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

生涯学習課所管分について、長谷川生涯学習課長が説明

(雲尾委員長)

では、まず2の(3)ですね。17ページ、18ページをお開きください。「子どもと親の読書活動」につきましていかがでございましょうか。

(村田委員)

17ページの「目的」のところなんですけれども、「家庭での読書活動を支援し、読書習慣を養う」というふうに、こう逆にしたら問題は起きますでしょうか。逆にした方がわかりやすいと思います。

(長谷川生涯学習課長)

ご主旨はわかりますが、子どもたちの読書習慣はまず確かに、家庭での読書活動という部分もあるんでしょうが、まず、読み聞かせをすることによって、そういった経験を子どものころから養うとともに、家庭での読書活動を、私どもがサポートする事業の中で展開をしていきたいという部分があって、この前置きの部分は幼い頃、家庭でというふうにわけさせていただいたところでございます。

(村田委員)

そうすると、前段の方と後段の方は主語が違うんですか。

(長谷川生涯学習課長)

いえ、主語が違うということではなく、一応そのような形で考えさせていただいたことです。では、どちらが前かと言われると、確かにおっしゃられるとおり、家庭で幼いときから母親が読みきかせをすることによって、そういった習慣が身につくということなのかもしれないとは思っておりますが。

(池浦教育部長)

ご指摘いただいている点は十分理解できるところがあるんですが、この評価シートは以前からお話しているように、三条市の行政評価シートを使わせていただいている、前期計画、後期計画、それぞれに基づいてこの評価シートを作成していて、全体の評価というものの中で一応かかわっているところで、三条市全体としての評価は既にいただいているという面もあることから、本旨に関わる大きな問題でなければ、こういうところをご理解をいただきたいと思います。

(村田委員)

あんまり変えられないんですね。

(池浦教育部長)

そうなんです。例えば「総合評価」であったり、「指標に対する評価」であったり、そういったところについてはご指摘いただいて、変えられるんですが、この「目的」自体は統一しているところで、簡単には変えられないことをご理解いただくとありがたいなというふうに思います。

(村田委員)

はい。そんなにこだわってるわけではありませんので。ただ、その方がわかりやすいのではないかと思っただけなので。

(雲尾委員長)

次回、立てるときにはご検討いただきたいというご意見として出していただいたということで。そのほかの部分はいかがでございましょうか。

(村田委員)

18 ページの今後の推進方法のところに「しかけ絵本日本一プロジェクト」ということが出てきて、新しい取り組みだと思うんですけども。もう少し何か補足の説明をされてもいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

(長谷川生涯学習課長)

これにつきましては平成 26 年度施政方針にも挙げさせていただきましたが、栄庁舎内の図書館栄分館を、子どものための「しかけ絵本」約 1,000 冊という目標数値を設けさせていただき、子どもたちに特化した図書館にしていきたいということで、平成 26 年度新たに取組みさせていただいている事業です。

(雲尾委員長)

ということによろしいですかね。

第二指標のところで、「指標に対する評価」で、最初の 2 行は 7 冊減という形なんですけど、団体の貸出しが 15,125 冊と増加したことからというのは、これは 56,603 冊のうちの、15,125 冊は団体貸し出しという意味ですよ。だから増加量がわからないんですよ。ほかは増減量なので、減だけですけども、ここも、増加量をわかるように書いていただきたいなと思います。

なかなかブックスタートは 100%にならない、本来なるべきなんですよ、100%にはね。

(長谷川生涯学習課長)

当日来ない方もおいでになりまして、一応名簿には記載されているんでしょうけれども、なかなか来れない方という部分の中で 100%にならないということです。ただ、そういった部分を見つけて配布はするんですが、100%にはならないということです。

(雲尾委員長)

受け取らないうちに転出されてしまえばしょうがないとは思いますが、お住まいのある限りは、三条市に住まわれている限り当年度でも 100%になるといいかなと思うんですけど、どんなもんでしょう。

(長谷川生涯学習課長)

努力させていただきます。

(村田委員)

第一指標のところで、「平成 25 年度は、健康相談会対象者が前年度の 784 人に対し、今年度」とありますが、「今年度」はいらなと思います。

(雲尾委員長)

2 行目の最初の今年度ですね、が不要ということで。前年度に対し、今年度というのが 2 つあるので、その前年度に対しとあるからもう今年度はいらなっていうことですね。

そのほか、2 の(3)はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では3の(1)でございますので、23、24ページをお開きください。ここについていかがでございましょうか。

(雲尾委員長)

まず「主な構成事業」の、1つ目の「青少年体験教室」なのですが、これ、文章が非常に長くて、「子どもたちがさまざまな体験活動を通じて知的好奇心や想像力を豊かにし、自立心の育成や参加者同士の交流を図る」だから、「子どもたちが交流を図る」が、これ、全部かかっているんですよね。文章的に非常にわかりにくいので、「子どもたちが」は後でいいですね。「さまざまな体験活動を通じて知的好奇心や想像力を豊かにし、自立心の育成や参加者同士の交流を、子どもたちが図れるようにするための事業を推進する」とか。そういったような感じにさせていただけるとわかりやすくなると思います。

それから次の「教養講座・文化講座」もちょっと矛盾があつて。「市民の主体的な学習活動や地域社会へ貢献する活動を推進するための支援」ですよね。主体的な活動を推進するというのは論理的に矛盾が出てきてしまうので、「市民の主体的な学習活動や、地域社会の貢献活動への支援」だけでいいと思うんですね。ここは、「推進」はいらないかなということになるかと思います。

それから、高齢者教育なんですか、「現代社会に対応できる知識の習得や趣味教育の向上を目指し」まではいいと思うんですけど、その次が「学習を通しての仲間づくりや」はいいとして「健康で明朗、円満な人格形成を図り」ってここはちょっと、どうかなという。この真ん中の部分が「明朗、円満な人格形成」を市が図るというのはいかがなものかという気も。非常に価値志向的いいんだろうかという。怒りっぽいお年寄りには困ると思いますが。ご検討いただければと思います。

あともう一点は、第一指標の「指標に対する評価」の最後の一文ですね。「引き続き」の文章ですけども、これは今後の方針のどこにもっていただくといいことではないかと思っております。

そのほか、3の(1)はよろしいでしょうか。

(村田委員)

「今後の推進方法」の下から4行が、長い一文なんですよ。「さらに」から「推進していく」まで。途中で切って、2文にしたらわかりやすいと思いますけれども。「事業を展開する」で切ったらどうでしょうか。

(雲尾委員長)

「事業を展開する」で一旦切ってですね。

(村田委員)

「同時に」とか、ちょっとした接続の言葉を入れればいいと思います。

(雲尾委員長)

ということでございます。そのほか、いかがでございましょうか。

では、3の(1)を終了いたしまして、3の(2)でございます。「現代的課題などの学習」についてはいかがでしょうか。

(村田委員)

26ページの「総合評価」のところの真ん中のあたりで、「高い評価を頂くことができた」ってすごく丁寧な言葉を、前の方にも1か所そういうところがあったと思うんですけど。あんまり、その丁寧言葉みたいなのはいらなと思います。「得る」とか何かしたほうが良いと思います。

(長谷川生涯学習課長)

統一的にしたいと思います。

(村田委員)

それから、「昨年度から開設している」とありますよね。同じところの右の方にいくと「また、昨年度から開設している「まちなか文化祭」とありますが、昨年度は平成24年度ですよ。前にもこの昨年度とか前年度とかいうのが出てくると、今平成26年度なんだからどうかと思うところがあるので、年度をきちっと入れた方が良いと思います。

(雲尾委員長)

そのほか、「今後の方針」の一行目に「世代を超えて市民のニーズが非常に高いパソコン教室」というのがあるんですけども、これらはどこに反映されるんですかね。ここに挙がっている事業の中にはないんですね。

(長谷川生涯学習課長)

ないですね。

(雲尾委員長)

この項目、「現代的課題などの学習」の中には入るということではないんですね、考えとしてはね。内容が、情報教育、ICTってということで。ただ指標の中にはない。第一指標の中では、今回これは入っているんですかね。

(長谷川生涯学習課長)

今、現在講座の中で入っている可能性がありますので、ちょっとそれを確認させていただいて、入っているのであれば位置づけさせていただきます。

(雲尾委員長)

そのほか、3の(2)はよろしいでしょうか。

では3の(3)でございます。27、28ページ。「学習成果を活かす仕組みづくり」でございますが、いかがでございましょうか。

(村田委員)

「主な構成事務事業」の中で、市民総合大学というのがあっていますが、市民総合大学、今後の、文言としては「総合評価」にも、「今後の推進方法」にも、「市民総合大学について」というのが出てくるんですけども。もう少しこの市民総合大学で企画とか、運営とかした人がどうだったかとか、それをもっとどうしてととかいうのが、もう少し説明されてもいいと思います。

(長谷川生涯学習課長)

その辺の書き方が少し足りなかったようでございますので、その市民総合大学で、そういった学びとはどういった形で企画運営をするかということをもう少しわかるように書き替えさせていただきます。

(雲尾委員長)

今、どうしてもその「総合評価」のところにも市民総合大学とは読むんですけども、これ、「市民総合大学や、参加者による教室運営」といったもので、この「参加者による教室運営」というのは何を指すんですか。

(長谷川生涯学習課長)

我々職員が全部与えてやるのではなく、教室に参加している人からも講座等の企画をしてもらうことにより、自分たち自らが参加をしているという意欲と意識をしっかり持っていただけのような講座も考えているところでございます。

(雲尾委員長)

講座の参加者による教室運営ということになるんですね。

(長谷川生涯学習課長)

そういうことです。

(村田委員)

「今後の方針」のところの一行目の「市民総合大学については、学習成果を発表する機会の充実を図り」とありますが、これ、自分の学習した成果を生かして講座の企画とか、運営とか、そういうことに携わるということ、今後もしらに進めていくということなんで。この「学習成果を発表する機会の充実を図る」ということは、市民総合大学とは直接結びつくことではないように思うんですけど。

(雲尾委員長)

「主な構成事務事業」の市民総合大学は、「市民が学びの成果や自らを持つ知識・技能を活かし、自ら講師となったり、講座を企画運営する」ということでやると。で、そこにおいて「学習成果を発表する機会のある充実を図る」ということを進めるということなんですよね。この辺の関係が、左に書いてある内容と、右の推進方法が。

(長谷川生涯学習課長)

その辺を少し整理して、矛盾がないようにいたします。

(雲尾委員長)

その次の段落なんですけども、「生涯学習関連施設における積極的なボランティア活動を推進するため」は「広報等を通じて」で、「その確保に努める必要がある」という、「その確保」というのはボランティアをする人を確保するのか、ボランティア活動内容を確保するのか。何を確保するんですか。

(長谷川生涯学習課長)

参加者ですね。

(雲尾委員長)

参加者を確保したいということなんです。その参加者を確保するというのが、それは専門的じゃないということで、「次は専門的な知識・技能・経験を有する人や、学習成果を活かしたい人の情報を蓄積した生涯学習人材バンク事業の推進と、その人材が活用できる機会の充実」。人材が活用できるといった場合、主語は「人材が」になってしまっているので、その人材が活用されるような機会の充実に図るというのはわかるんですけども。ただ、生涯学習人材バンクの人材を、市が、行政が積極的に活用するというばかりじゃなくて、これはどちらかというと広報をして、市民が、市民の学習活動で呼ぶというための人材バンクでもあるわけですから、そちらの方の視点がないですね。人材バンク事業の推進といった場合に、人材バンクに人を入れるばかりじゃなくて、そのバンク自体を広報してくというのも推進の概念に入っていないといけないので。そういったようなところで、この後半を少し整理していただきたいと思います。

3の(3)につきまして、ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

では、4の(1)、「文化遺産の詳細調査・文化財指定」でございます。いかがでしょうか。

(雲尾委員長)

「主な構成事務事業」の2なんですけれども、「下田郷のいしぶみ調査」と、この「調査」が入ってるわけなんですけども、あとの2つは「調査」が入ってないわけですね。ですので、しかも3つ並べて、最後に「吉ヶ平の民具を対象に実施」とありますが、これは「対象に実施」は、これ、3つともかかるわけですね。とすると、「かけがえのない文化遺産を記録、保存し、活用につなげる対象は以下の3つである」ということで、「下田郷のいしぶみ」だけにして「大谷地紙の歴史と製作道具」、「吉ヶ平の民具」というふうに書いていただくことになると思います。

あと、1つわかりづらいのは、第一指標のところ「木造十一面観音菩薩立像など市指定文化財に2件」入って、「旧今井家住宅新館が国登録有形文化財に指定・登録され」て、3

件増えたということなわけですが。そうすると、旧今井家住宅新館というのは市の文化財でもなかったということですよ。市指定文化財を飛び越えて、国登録有形文化財になったということでもいいんですかね、これはね。

(長谷川生涯学習課長)

市指定文化財ではなく、国登録有形文化財になったということです。

(雲尾委員長)

ということは、逆に言うと、なぜ市の登録文化財になってなかったのかという疑問もなきにしもあらずなんです。どうなんでしょうね、国の登録有形文化財になるようなものをつかずに市が放っておいたということになるんですかね。どうなんでしょう。

(笹川教育総務課長)

確か、国の登録有形文化財については、市の指定文化財の前段と位置づけられていて、自らが手をあげていただき、一定の基準を満たしていれば登録されるものであります。その後、より貴重なものと各審議会で認められれば指定文化財となるものでございます。そこで旧今井家の関係につきましては三条市としていろいろと民間団体の皆様方がご寄附いただきながらやっておりましたので今回手を挙げさせていただこうということで、国の方の登録有形文化財という形でさせていただいたという話は聞いております。

ですので、市の方でやってないから国の方で飛び越えていったんじゃないかと、一般的にはそう思われがちなんです。まずは、国の登録、続いて市の指定となっております。

(雲尾委員長)

わかりました。いや、市の方がそういう努力をしてなかったというわけではないということがわかれば問題はなく。

(笹川教育総務課長)

そうですね、はい。

(村田委員)

「総合評価」のところに、「文化財の指定・登録し活用できる」という、その活用という言葉が何回も出てくるわけなんですけれども。活用というのは、結局、その公開したり、展示したり、鑑賞会開いたり、講演会開いたり、なんかすごい、いろいろすることじゃないかと思うんですけど、ちょっとそういうことを入れるというか、活用の中身をちょっと説明していただいた方が、どこかに入れていただいた方がいいと思います。

(長谷川生涯学習課長)

今、委員長が発言されたように、ただ、単純に活用ではなくて、活用の内容をしっかりと書かせてもらいます。

(雲尾委員長)

これ、4の(1)のものも、4の(2)のものも、4の(3)で活用しているので、4の(3)で書いてあることを4の(1)、4の(2)に書けるのかという、そこはまた、この評価シートでいうと難しいところではあるんですよね。

そのほか、4の(1)はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では次、4の(2)でございます。これについていかがでしょうか。

(村田委員)

ここ、すごく徹底していて、全部100%できているわけですよね。それで評価はBなわけですけど。そこの前のページもそうなんですけど、どういう程度でAになるのかなと思って見るんですけども。Aになってもいいんじゃないかと。その、前のところも、4の(1)もAにてしてもいいような気がするんですけども、どうなんでしょうか。

(長谷川生涯学習課長)

その辺ちょっと持ち帰って確認をさせていただきたいと存じます。

(雲尾委員長)

そのほか、4の(2)はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。よろしいですか。

では4の(3)でございます。「文化遺産の公開・活用」につきましてはいかがでしょうか。ここで4の(1)、4の(2)で指定・発掘されたもの等を公開してくという形になっているわけですけども。

(雲尾委員長)

「総合評価」の3行目の、これ「四獣鏡」ですか。神獣鏡ではなく。

(長谷川生涯学習課長)

四獣鏡でいいと思いますが、再度確認します。

(雲尾委員長)

有名なのは三角縁神獣鏡ですので、神の獣かなってというのが一般的なイメージなので。四つの獣が刻まれている鏡があるなら、それはそれでいいんですけども。

(長谷川生涯学習課長)

四獣鏡で間違いないと思いますが、確認をさせていただきます。

(雲尾委員長)

そのほか、いかがございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは全体を通して見ていただきましたので、どこか前のところで気になっているところ等ございましたら補完いたしますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

(4) 次回教育事務点検評価委員会の日程について

笹川教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

〔日時〕平成26年8月22日（金）午前9時30分

〔会場〕三条市役所栄庁舎 201 会議室

(5) 閉会

(池浦教育部長)

今回も第1回目から、長時間にわたりまして大局的な視点から、文章表現に至る細かい視点に至るまで様々な御指摘、御指導をいただきまして大変ありがとうございました。

今回もいろいろ御指摘をいただいた中で、先ほどもお答えさせていただきましたが、当初から総合計画で行政評価システムがあつて、そこにのって行く形の中でこの教育事務の点検評価をするというところにも、この制度システム上少し踏み込めない部分があるということが、そもそもの課題であるという中で進んできたところもございます。

教育長が冒頭挨拶させていただいたように、今年度を持ちまして総合計画は終わりますし、新たな総合計画の策定に入っておりますし、教育基本方針の策定にも入っています。それを踏まえた中で、来年度少し、この教育事務の点検評価のシステムの制度設計自体から検討させていただきたいということも考えております。本日は大変ありがとうございました。

〔閉会〕午後3時54分